

## 第3回 第7章 (労務費・外注費・経費)

### 本日のテーマ

#### ① 労務費

1. 直接労務費と間接労務費
2. 当月消費の計算
3. 作業時間の計算 (定時間外の把握)
4. 賃率の計算

練習問題 7-10

#### ② 外注費

.22 回過去問 5 問

#### ③ 経費

22 回過去問 5 問

#### ④ 練習問題を実施しよう

練習問題 7-5~11 (10 以外)



1.直接労務費と間接労務費

直接工の直接作業時間のみが未成工事支出金へ  
それ以外は工事間接費へ

2.当月消費の計算

P13 の計算です

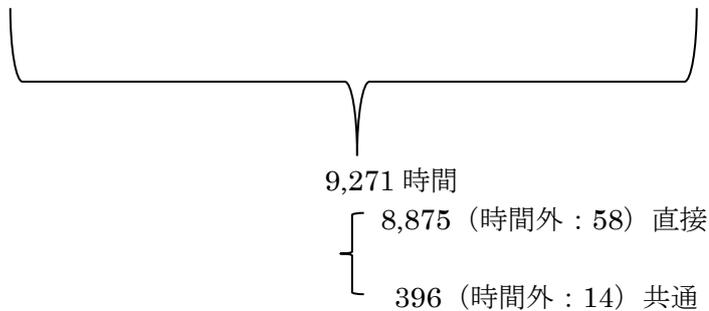
3.作業時間の計算（定時間外の把握）

段取り時間と手待ち時間

4.賃率の計算（練習問題 7-10 で説明します）

$$@1,340 + @268 \rightarrow 1,608$$

12,398,760	4,336,210	
	@1,340 × 9,271 =	} 12,442,436
	@268 × 72 =	
予定価格 4,421,196		} 直接 11,908,044 →未成工事支出金
		} 共通 534,392 →工事間接費



- ②外注費 ③経費に関して「22回過去問：第5問」確認してみよう。  
 支払経費・発生経費・月割経費・測定経費の代表例のみ確認しておこう

5. 当月の外注費に関する資料

当社の外注工事には、重機械の提供を含むもの（一般外注）と労務提供を主体とするもの（労務外注）がある。一般外注工事の当月発生総額は¥207,050であったが、これについては、専門工事業者からの作業時間報告書によって各工事に配賦している。労務外注工事については、発注時から工事別に個別に賦課している。工事別の当月実績は次のとおりである。

工事番号	901	902	903	合計
一般外注工事（時間）	13	33	55	101
労務外注工事（円）	51,700	76,300	105,800	233,800

（注）労務外注費は、月次の完成工事原価報告書の作成に当たっては、そのまま外注費として計上する。

6. 当月の経費に関する資料

(1) 直接経費の内訳

（単位：円）

工事番号	901	902	903	合計
従業員給料手当	5,500	15,500	15,100	36,100
法定福利費	1,250	8,390	9,480	19,120
労務管理費	4,500	12,500	13,900	30,900
福利厚生費	3,350	12,300	14,330	29,980
通信交通費他	3,840	10,500	14,690	29,030
計	18,440	59,190	67,500	145,130

（注）経費に含まれる人件費の計算において、退職金および退職給付引当金繰入額は考慮しない。

- (2) 役員であるS氏は一般管理業務に携わるとともに、施工管理技術者の資格で現場管理業務も兼務している。役員報酬のうち、担当した当該業務に係る分は、従事時間数により工事原価に算入している。また、工事原価と一般管理費の業務との間には等価係数を設定している。関係資料は次のとおりである。

(a) S氏の当月役員報酬額 ¥549,000

(b) 施工管理業務の従事時間

（単位：時間）

工事番号	901	902	903	合計
従事時間	20	10	30	60

(c) 役員としての一般管理業務は90時間であった。

(d) 業務間の等価係数（業務1時間当たり）は次のとおりである。

施工管理 1.5 一般管理 1.0

★マトメ

練習問題 7-5、7-6、7-7、7-8、7-9、7-11

質問タイム

★法定福利費はなぜ個人毎に把握できるのですか？

★工事Aのための手待ちでも間接費なのですか？

★工事Aのための残業でも間接費なのですか？